



みなみせや

11月号

ありがとう

副校長 小嶋 一喜

11月7日に「南小OP（オリンピック）」いわゆる運動会が行われます。今年度は、コロナ禍ということで、学年の団体競技、未就学児の種目、PTA競技などをなくして、午前中開催となっています。一人ひとりの子どもたちは、徒競走50mと学年の演技に参加をします。そして代表の子どもたちが、応援で盛り上げたり、リレーを走ったりします。

10月12日から後期が始まり、南小オリンピックに向けて準備が本格的になってきました。校庭では、休み時間も、放課後もオリンピックに向けての準備をしている姿が見られています。2年生のTさんは、太鼓を打つ動きをゆったりとした音楽に合わせてすることをめあてに頑張っています。リレーの選手のKさんは、相手の渡し方に上手に対応したアンダーハンドパスにチャレンジしています。一人ひとりが、どんなところを頑張ってきたのか事前に把握していると、当日、子どもたちの見方もシャープになると思います。ぜひ子どもたちに頑張っていることを聞いてみてください。そして、終わったあとに「〇〇がとてもよかったよ。めあてにして頑張っていたから成長できたね」と声をかけると、子どもたちから最上級の「ありがとう」が返ってくるのではないのでしょうか。

昨年から5・6年生の演技はソーラン節です。今の6年生は昨年経験しています。その6年生が昨年の経験を生かして主体的に、縦割り班で一緒に5年生に動きを教えています。自分が模範を見せたり優しくアドバイスしたりすることで、相手が上達していく喜びを感じているようです。上級生から下級生へのよいかかわりが、毎年引き継がれていくと、学校の中に、ありがとうの輪が広がっていくと考えています。

さて例年、保護者参観の立ち見スペースで、後ろから見ているAさんと前に居座っているBさんの心の会話が聞こえてきます。

A「Bさんは、立ち見スペースの前の方ずっと立ち止まっている。」

B「複数の学年に子どもがいるから、ずっと前にいてもいいだろう。」

A「それでも、一人見たら、譲るべきだと思う。多くの人が前で見たいのだから。」

B「〇〇ちゃんだけ、前から応援すると兄弟で不公平になるから、ずっと前にいてもいい。」

Aさんは全体的な視点でものごとを考えていて、Bさんは自分の家族のことしか考えていないことが分かります。

そこで、今年度本校のPTAは、最高のオリンピックになるよう「ゆずり愛♡きあい♡ゆずり愛♡家族愛」をスローガンに掲げ、本部役員、委員、サポーターの方々が「ゆずり愛」という文字が入った腕章をして参観します。徒競走は、全学年50mなので、ゴール付近の参観が密になってしまうことを心配しています。秋のさわやかな天気の中、校庭の限られたスペースの中で、互いに譲り合いの気持ちをもちながら参観してくださると有り難いです。ゆずり愛から生まれる「ありがとう」という言葉が溢れ、会場があたたかい拍手でつままれるような南小オリンピックになるよう、よろしくお願いします。

